

原発避難、「隠岐は検討中」

県が市民団体と意見交換

島根原発（松江市）の原子力災害に備えた県の避難計画について、市民団体と

県の意見交換会が22日、同市母衣町の県教育会館であり、約30人が参加した。船による避難が想定される隠岐諸島について、県は現時点で具体的な避難計画がないことを明らかにし



た。

「島根原発・エネルギー問題県民連絡会」が主催。

県側は島田範明・防災部次長ら5人が出席した。

県が2012年に作った避難計画について、連絡会の保母武彦事務局長は「被

曝せずに避難できるのか。福島では道路渋滞などの問題があった」「風向きによっては避難先とされている石見や広島に放射性物質が飛散するし、南風が吹いたら隠岐に飛ぶ」と問題点を

た。県は「全く被曝しないということはない。身体への影響が出ない量の範囲で避難する」という考え方。「風向きはどうか分らない

い。計画をどう運用するかが大変重要」と答えた。隠岐の住民について、県は「避難は船がないとどうしようもない。これについては検討中」と説明するにとどまった。そのうえで、火山の噴火で全島避難をした三宅島の例を引き、「三宅島では自衛隊や海保などの協力で全力を挙げたことなので、同様の対応が必要」と述べた。（奥平真也）